

これからは「めっちゃくちゃ変化する世界」になりま
す。そこで生き残るための
教育は、意外と本質的なも
のではないでしょうか。つ
まり、考える力と、考えた
ことを言葉にする力を身に
付ける、そして、体験総量
を増やすということです。

どれだけ遊んでけんかを
したか、障害のある人や外
国の人と出会ったか。挫
折も含めた多様で豊かな経
験が足りないとな大人になっ
た時、苦手に感じたり、乗
り越えられなかったりして
しまふ。いつの時代も同じ
です。

「より良い枠組みを選ぶ
ために良い成績を取る」と
いう従来の考え方は、コ
ロナ禍のような事態に対応
できない。知識を蓄えて正



高浜正伸さん

教育シンク力論

コロナから問う

。2。

しい答えを出すのは今後、
人工知能（AI）がやって
くれます。そうではなく、
働く頭をつくるのが大事。
必要かを考える。それには
そして、生き方は自分で
「哲学」が必要ですが、何

生き残るための教育とは

当たり前疑う哲学の機会に

花まる学習会高浜正伸代表

たかはま・まさのぶ 1959年熊本県生まれ。幼児
から中学生までの学習塾「花まる学習会」代表。3浪
して東京大に入学、90年に同大学院修士課程修了。思
考力や野外体験を重視する独特の教育理念や学習法
で注目される。算数オリンピック作問委員も務める。

にでも効率を求める雰囲気
の今はその時間がありませ
ん。

シリコンバレーで大成功
した人の共通点は高校、大
学で「不良」だったという
ことらしい。周りの言うこ
とが絶対とは思わず、従わ
ない。学校に行かず街でフ
ラフラしながら、自分のペ
ースを取り戻し、世界を自
分の言葉で語り直す。正解
なき人生で誰の笑顔が一番
大切にするかを考えたので
はないでしょうか。

実際に食べっていくには実
力を付けなければいけませ
ん。しかし、まずは自分の
頭でとことん考え、周囲の
期待や常識を取り去った上
で「やっぱりこれがやりた
い」というビジョンを明確
に持つことが大事です。コ
ロナ禍は「不良」でない人
にも「当たり前」を疑う哲
学の機会を与えてくれたの
ではないでしょうか。

（随時掲載）